学校だより

令和5年度 6月号

横浜市立庄戸小学校

笑顔がかがやく 子どもが主役の学校

～感動いっぱい　夢いっぱい　一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～

6月　たくさんの大人、たくさんの児童と接した５月

副校長　遠藤　義臣

６月初めは、麦にとっては麦秋と言われ、収穫の時期となります。七十二候では「麦秋至（むぎのあきいたる）」と言われ、青空の下、すくすくと麦が育つ季節です。

さて、５月１２日（金）の授業参観・懇談会は、三年ぶりに参観人数を制限せず実施しました。多くの方にご参観いただきありがとうございます。私も少しの時間でしたが教室をまわって子どもたちの様子を観させていただきました。保護者の方々の前で生き生きと授業に臨む児童の姿が微笑ましく、「見て。見て。」と言っている思いが伝わってきました。また、子どもたちは、いつも以上に授業に集中している姿も多く見られ、その姿からは、よいところを見て欲しいという気持ちの表れを感じました。ご家庭では見られない別の一面もあったかと思います。

お家に帰ってお子様をたくさん褒めたことでしょう。子どもは、褒められることで自分を認めてくれていると思い、自分に自信がもてるようになります。叱って覚えさせることより学習意欲などへの効果も大きいです。もちろん、間違った時には注意することも大事です。私の思いですが、大人になると段々と褒められることが少なくなるので、せめて、子どもの頃ぐらいには多くの大人にたくさん褒めてもらいたいと考えています。

さて、５月１６日（火）に音楽朝会を行いました。本校では久しぶりとなる全校児童が体育館に集まり、全員で校歌や横浜市歌を歌いました。今まで学級や学年でしか一緒に歌っていませんでした。しかし今年は、児童全員が一緒に集まり、歌うことができました。その喜びは児童のみならず教職員も感慨無量の時間となりました。また、高学年が模範として歌声を披露しました。どの児童も高学年の歌声を尊敬の眼差しで聴いていたことでしょう。その中でも１年生の児童はあらためて６年生のお兄さん、お姉さんを尊敬し、「もっと一緒に歌いたい」「もっとお兄さんやお姉さんと一緒にいたい」という気持ちが膨らんだことと思います。これは、いくら学級で先生による授業を行ったとしても、ここまでの気持ちの高まりは難しいことです。やはり、児童同士が接してもつ気持ちだったことだと思います。

この気持ちのまま、１９日（金）に行われたなかよし班づくりの活動では、さらにお兄さん、お姉さんが司会や運営を行う姿にあこがれをもったと思います。また、どの班の児童も異学年の児童と多く関わることで、お兄さん、お姉さんの話をしっかりと聞いていたり、お兄さん、お姉さんが考えたレクを楽しんだりしていました。今後も楽しみになったと思います。

このように褒められるだけでなく人から頼られたり、尊敬されたりしても自分に自信がつくと思います。

この５月はきっとたくさんの児童が自分に自信がついたことでしょう。まるで麦畑の麦に金色の穂がつきはじめたように。